卒業生編

NO STAGE NO LIFE!

咲くやこの花高校・演劇科の受験を考えているあなたへ

演劇科に入って良かった！　卒業生のリアルな声を集めました！



CONTENTS　演劇科を卒業して、どうだった？／演劇科のリアル！／演劇科生の心に残っているコトバ／演劇科に入ろうか悩んでいるあなたへ／未来の後輩へ（小林 唯）

演劇科を卒業して、どうだった？

コミュニケーション能力が磨かれ、人との出会いの幅を広げてくれた。（９期生／マルチタレント）

大学進学後は映像演技を学び、夢だった女優という職業を経験することができました。夢を叶えられたのは、演劇科で学んだカリキュラムや基礎があったからだと実感しています。その後、女優は辞めましたが、今でも接客やコミュニケーションの場面で学びが大いに活かされています。演劇科では、演技だけでなく**人としての在り方や社会性についても学ぶことができました。**そうした経験は、現在の仕事や日常生活にも繋がっていると感じています。（６期生／事務職）

学校の先生以外にも、舞台に関わる学外の先生方に教わる機会があったので、目上の方に失礼のないようにしながらも、しっかりコミュニケーションを取ることの大切さを知り、**社会に出る前に上下関係の意識や常識などが身につきました。**それは、今のダンスを教える仕事でも、いろんな方と関わる際のコミュニケーションの取り方だったり、それぞれの性格を知って、その上で人を動かす、というところで活かされています。（４期生／ダンス講師）

とにかくどこに行っても声の大きさと笑顔を褒められます！　もとは下手くそな作り笑いしかできなかったのに、舞台用の笑顔と発声のおかげで、職場でもお客さんからの印象が本当に良いみたいで、コミュニケーションがとても円滑になっています。（12 期生／牧場勤務）

柔軟な発想ができるようになりました。「何でも楽しむ方法を考える。おもしろくしていく」という演劇科で学んだことが活きていると思います。**楽しいことを考えるのが得意です！**（４期生／営業職）

テーマパークダンサーとして毎日ダンスを踊り、演技をしています。演劇科で身につけた踊りや発声の基礎はもちろん、コミュニケーション能力や演じることにおいての即興力もちゃんと役立っています。**これは他のスクールなどでは学べない、演劇科ならではじゃないでしょうか。**演劇科で毎授業前にした即興劇や、嫌というほど仲間とコミュニケーションを交わした日々がなければ、私は今、社会でうまくやっていけなかったと思います。（11 期生／テーマパークダンサー）

人前で話すことや表現することを怖がらずに楽しめるようになりました。どうすれば伝わるか、どのような言葉遣いや表情をすれば相手に良い印象で話ができるかなどを自然と考えられるようになり、自分に少し自信を持てるようになりました。そして何より、演劇科での３年間の思い出そのものが、私の人生の活力になっています。**クラス全員で本気で舞台に向き合ったこと、講師の方々から指導を受けられたこと、大事な友人に出会えたこと、**全てが演劇科だからこそ経験できた大切な３年間でした。もし、また高校受験をするとしても、演劇科を受験したいです。（４期生／会社員）

毎授業でやる即興の挨拶のおかげで発想力が上がり、役作りする時だけでなく、普段から**アイデアがぽんぽん出てくるようになりました。**裏方なども学べるので、外部の舞台に出演した時に、これも出来るんだ！と褒められました。（16 期生／大学生）

人前に立つ力。場の空気を見て、盛り上げたり落ち着かせたりすることができるようになる。そして、伝え方。同じ内容でも、声のトーン・間・ジェスチャーで理解度が変わる。改めて振り返ると、演劇科に通ったからこそ、**自分の引き出しが増えている**と感じました。（２期生／ダンス講師）

「自分の意見を持つことや伝えることは恥ずかしいことではない」と学べたことが、私の生活を明るくしてくれました。（11 期生／舞台関係者）

私が働いている医療の現場ではチームワークがとても大事です。医師というリーダーのもと、多くの医療従事者が意見を出し合い、患者さんがよりよくなるように尽力します。そこには、演劇科で、演出家をリーダーに、音響や照明、舞台美術や衣裳・小道具などが協力して**ひとつの作品を作り上げた経験が活きている**と感じています。また、私は身体表現や舞踊の授業がきっかけで、身体の構造について興味を持ち、筋肉や骨の勉強をして理学療法士という資格を取得しました。講師の先生方にはとても感謝しています！（４期生／理学療法士）

演劇科で学んだ「人とのコミュニケーション能力」が今の現場でも役立っています。ネット社会のこの時代で、**相手の顔を見て話すことの大切さ**を学べて良かったです。（４期生／舞台監督）

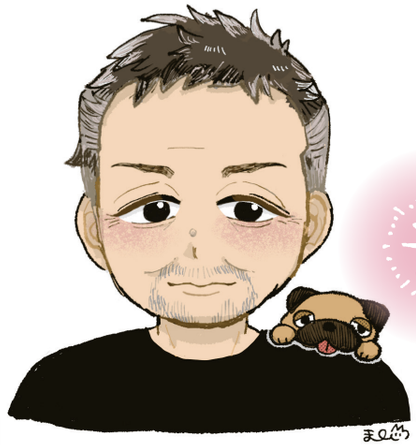
バレエを教える仕事をしています。「相手に分かりやすく伝えること」に楽しさを感じるようになったきっかけは、演劇科での経験にあります。教える際、「どうすればもっと分かりやすいだろう？」と試行錯誤した時、伝えることの難しさを感じたのと同時に、相手が理解してくれた時の喜びややりがいを知りました。**「自分の想いや知識を相手に伝わるように外に出すこと」も、演劇科で学んだ、大切な『表現する力』のひとつ**です。これは舞台の上だけでなく、社会に出て自分の考えをプレゼンしたり、相手を思いやりながら自分の意見を伝える時にも役立つ大切な力だと実感しています。（２期生／バレエ講師）

看護師として働くなかで、患者さんの心理的理解に活きています。思春期の方から高齢者の方まで、様々な患者さんと関わりますが、対応する際に**演劇科で学んだ「表現（声のトーンなど）」が活かされ、**仕事での良い評価に繋がっています。（１期生／看護師）

投げやりにならずに**最後まで向き合う力**が、どんな場面でも役立っています。（10 期生／俳優）

私は今、海外で役者として活動しています。演劇科で演劇の楽しさに触れ、今もこうして続けられていること。そして、演劇科で３年間一緒に過ごした仲間たちが卒業後も、様々な場面で活動している様子に、今でも刺激をもらっていること。**演劇科での学びや経験は、どんな時も私の原点です。**（２期生／役者）

演劇科生の心に残っているコトバ



イラスト：吉原千世（１期生）

当時、河野先生から「演劇とは、日常を美しく生きること」という言葉をいただきました。その頃は正直あまりピンと来ていなかったのですが、卒業して10年経った今、**その意味を身に染みて実感しています。**（６期生／事務職）

「日常を美しく生きること」は、どんな職業、生き方になったとしても共通していえる大事なことです。やりたいことをやろうと思ったら、まずは当たり前のことを当たり前にできていなければいけません。私は、この言葉をいまだに毎年のスケジュール帳の表紙に書いています！　**今好きなことをできているのは、演劇科で培った人間教育のおかげでもあると思っています。**（５期生／エンターテイナー・ダンス講師）

「座右の銘」を聞かれたら、私は「日常を美しく生きること」を紹介します。仕事柄人前に立つ機会が多く、生徒やその保護者、アルバイトスタッフなどいろんな方と関係性を構築する必要があるため、**「他者から信頼されるための振る舞い」として、「日常を美しく」を心がけています。**今でもお手洗いのスリッパは綺麗に並べる癖があります（笑）（11期生／予備校職員）

演劇とは「日常を美しく生きること」※

――河野 良幸（演劇科 学科長）

※もともとは、河野先生がピッコロ演劇学校時代に教わった、秋浜悟史先生からのお言葉。

演劇科のリアル！「ここが最高！」ランキング

第1位　日常がミュージカル！ とにかく踊る!! 歌う!!

演劇科らしい「とにかく踊る！歌う！」が第１位！**「廊下でミュージカルが始まる」「誰かが歌い始めるとフラッシュモブみたいにだんだん増えて大合唱になる」**などなど、面白いエピソードがたくさん寄せられました。様々な代の卒業生にアンケートをとりましたが、多くの代に共通していた回答でした。きっと、演劇科のＤＮＡとして脈々と引き継がれているのでしょう。「誰かが遊び出すとそれにつられてみんなふざけ始める。即興で演劇が始まる。ふざけ倒した記憶しかありません」という声も。楽しそう！

第2位　卒業の頃にはみんな仲良し！ 最高の仲間！

「3年間のうちに、みんなだんだんと素を曝け出していくし、家族より一緒にいる時間が長いのでほぼ家族になる」とのこと！　３年間クラスが変わらないからこそ、家族以上の関係になれるのが、演劇科の良いところ。**「卒業して約10年経っても、クラスメイトに会うと、昨日のことのように思い出話が尽きない」「いまだにクラスメイト全員の名前を言える」**など、仲良しエピソードが多く見られました。卒業しても大切に思える一生の仲間に出会えるのは、貴重なこと！　演劇科なら、それが叶います。

第3位　何事も全力投球！ イベントを楽しむ！

意外と多くあったのが、「イベントも全力！」という声でした。**「体育祭や合唱コンクールなど演劇科の行事以外にも全力で取り組む。**どうも球技は苦手で、球技大会では全力で毎回負けて、吉本新喜劇ばりに演劇科生だけがその場でひっくり返っていました」という笑えるエピソードまで！　他にも、ハロウィンやバレンタインにはパーティーをすることも。「同級生の男子２人がバレンタインの日に喧嘩ドッキリをしてチョコをくれた。本気の演技だったので、みんな見事に騙された！」なんていう素敵な思い出も！

＼ほかにも！／

- 舞台、ミュージカル、映画など、いろんなジャンルのオタクトークをいっぱいしました！
- 楽屋での時間が最高！演劇科じゃないと経験できない。まさに、青春！
- 即興劇の時間。クラスメイトの意外な一面が見られて、楽しい！

演劇科に入ろうか悩んでいるあなたへ

舞台が好き、目立ちたい、楽しそうだからやってみたい、などきっかけは何だってオッケー！　演劇科で、経験豊富な講師陣や愉快な先輩、仲間が君を待っているよ！

将来何になりたいか、まだ決まっていない人の方が多いと思います。それは、できることが何もないからではなく、可能性が無限大すぎて決められないだけなのです。僕の言葉を信じてください。そんなみんなには、演劇科がちょうどおすすめです。どんな方向にでも進めます。何にでも挑戦できて、楽しむことができます。辛いことはあるかもしれませんが、周りの同級生が同じように感じるしんどさより、100倍楽しいしんどさです。味わってみないと分からないですから、勇気を出して一歩踏み出してみてください。根拠のない自信を大切に！

人との繋がりが大きく役に立ちます。演劇科は縦の繋がりが強く、卒業後もその繋がりを持ち続けることができるため、演劇だけでなく今後自分で何かをやってみたい人にもとってもおすすめです。大変で苦しくて逃げ出したくなる時も沢山あるけれど、私はここで頑張ったことを後悔したことは一度もありません。

演劇科に興味はあるけれど、「歌や演技、ダンスに自信がない」「将来、演劇の仕事に就けなかったらどうしよう」と不安に感じている方もいるかもしれません。ですが、そうした心配は全く必要ありません。現在の私は演劇とは異なる分野の仕事に就いていますが、趣味で演技や歌のお誘いをいただくこともあり、演劇科での経験が今の生活を豊かにしてくれていると感じています。

私は、文化祭の演劇で興味を持って進学しました。大きな志がなくても少しの興味からでも十分です！

演劇関係のお仕事に就職するという目的がなくても、入って損しない学科です！！　やるべきことはしっかりやりつつ、自分の幅を広げて、いろんな対応力を身につけられるのはここならではだし、10年ほどたった今、それを確かに実感できています。もちろん、勉強もやらなければいけないから大変なこともたくさんあるけれど、そこにプラスわくわくがある学科なので、迷っているならやってみなよ！という気持ちです。

「将来の夢がある子」が集まりやすいのが演劇科だと思います。夢を追う子を身近で感じていると、自分も「夢を諦めないぞ」と思うことができるでしょう。人生は一度きりですから。たとえ、高校卒業後すぐに夢が叶わなかったとしても、叶えようと希望を持ち続け、努力できることが大切なんだと思います。私が現在も夢を追い続けられているのは、演劇科で「夢を追い続ける力」を獲得できたからです。

もし大学も考えて高校を迷っているなら、演劇科に来ても、成績さえとっておけば、いろんな指定校を狙えたり、どこの大学でも受験できたりするので、心配しなくていいと思います！　私は、選んで正解でした！！　最初はこの高校に来ることに前向きではなかったのですが、いざ通ってみると演劇科に来て良かったと心の底から思えるほど楽しくて、素敵な高校生活を送れました。友達も、高校3年間の思い出も一生の宝物になりました。

他の学校より絶対変人が集まっていて面白いです。刺激的な3年間になると思います！

「仲間」と出会える場所です。たった3年、されど3年。どうせなら、最高の仲間と3年間を楽しもう！

私自身、演劇科に入るまで舞台やダンス、歌などの経験は一切ありませんでしたが、間違いなく高校生活が人生で一番楽しく、人として成長した時間でした。進路は演劇とは全く違う道に進んでいますが、学んだこと全てが今に活かされていると自信を持って言えます。大変なこともたくさんありますが、それ以上の幸せを演劇科でもらっています。公立ではとても珍しい咲くやこの花高校演劇科、興味がある方は是非一度遊びに来てみてください！

演劇科では、普通科では経験できないことがたくさんあります。舞踊、歌唱、狂言、創作ダンス、バレエ、様々なことを授業で経験できます。そして、それは今後絶対無駄になりません。私は演劇科のおかげで、自分を好きになれました。演劇が好きな方、ダンスや歌が好きな方はもちろん、舞台美術に興味のある方も是非演劇科へ進学してみてください。めちゃくちゃ楽しいです。演劇に興味がなくても、自分に自信を持ちたい方にもきっと向いていると思います。大変なこともありますが、それ以上に楽しい3年間になると思います。是非挑戦してみてください！

未来の後輩へ

俳優　小林 唯



現在、ミュージカルを中心に俳優活動をしている小林唯です。自分は２期生として演劇科に入るまで、芝居をやったこともなければ観たこともありませんでした。最初は興味本位でしたが、演劇科での生活を通して役者に必要な「自分の殻を破ること」や「心を解放すること」、そして「表現すること」の奥深さや楽しさを初めて知り、今の仕事に繋がっています。

クラスのみんなとぶつかり合ったり、創作活動をともにしたりするなかで、他の学科では味わえない仲間意識や、濃密な「青春」を謳歌しました。どれもかけがえのない特別な時間でしたし、今これを執筆しながら沢山の楽しかった思い出が蘇ってきます。

自分のように芝居に魅了されてこの仕事を選ぶ人間もいますが、演劇科で学べるのは芝居の技術だけではありません。自分の気持ちを表現する力や人と向き合うコミュニケーション能力は、どんな道に進んでも必ず財産になります。

一生に一度しかない高校生活を、より特別なものにするために、演劇科は有意義な選択肢になると思います。少なくとも、自分はそうでした。

この冊子に寄せて

この冊子は、学校案内やパンフレットだけでは伝わらない、
演劇科の日常や生徒たちのリアルな声を届けたい。
そんな思いから始まった企画です。

私自身も、この演劇科の１期生として学び、現在は講師として生徒たちと関わっています。
演劇科は、演技の技術だけを学ぶ場所ではありません。
人と関わりながら、自分を知り、世界を広げていく場所です。

この冊子を通して、演劇科の魅力や雰囲気が少しでも伝わり、
進路を考えるみなさんのヒントになれば嬉しく思います。



咲くやこの花高等学校 演劇科講師　青木 春奈（演劇科１期生）

NO STAGE NO LIFE!（卒業生編）発行日：2026年7月15日 発行：咲くやこの花高等学校演劇科 協賛：同窓会・咲くや会 企画：青木 春奈 協力：植田 翔子 編集・デザイン：宮本 巴奈